

## 工事事故(速報)の情報提供について

工事の安全管理には、日頃から万全を期していただいているところでありますが、この度、残念ながら別紙に示す工事事故が発生しました。

各事務(管理)所の工事現場において、このような工事事故が再び発生することのないように工事事故概要を皆様にお知らせいたします。

本資料を活用し、受注者を適切にご指導頂き、再発防止に努めて頂きますようお願いいたします。

### 【工事事故(速報)発生状況】 (H26.2.28現在)

	2月発生件数	累計件数	死亡者数	負傷者数
平成25年度(今年度)	8件	71件	2人	31人
平成24年度(昨年度)	1件	85件	1人	32人

注1) 上記は、関東地方整備局管内の工事事故発生件数(速報)を示す。

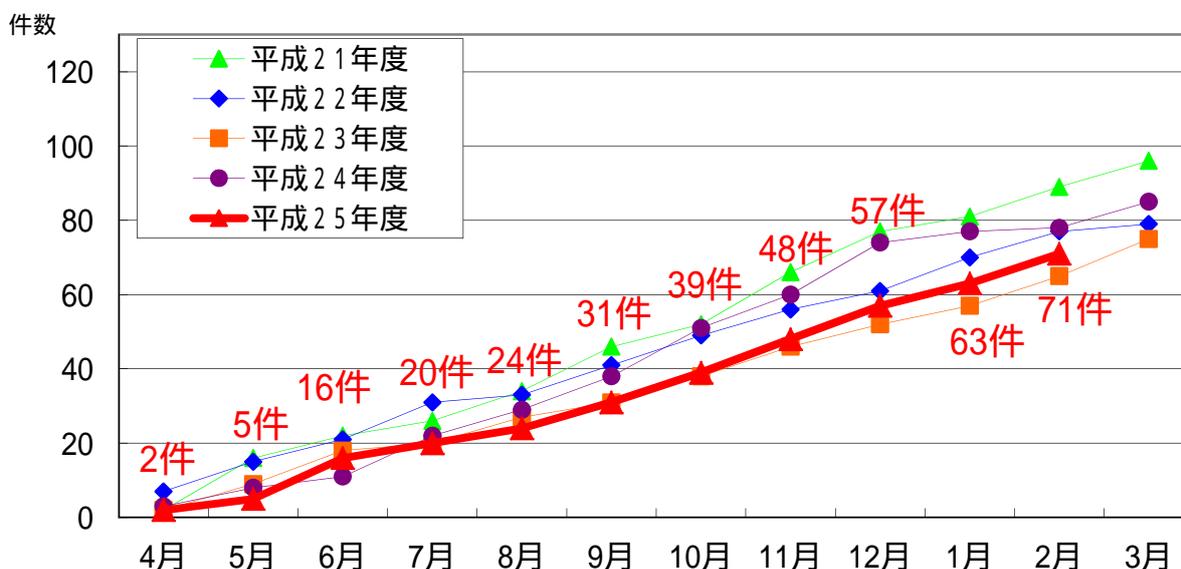
注2) 「2月発生件数」は、2/1～2/28の間に起きた件数。(月毎分)

注3) 「累計件数」は、4/1～3/31の間に起きた件数。(累計分)

注4) 「死亡者数」・「負傷者数」は、4/1～3/31の累計人数を示す。

注5) 平成25年度の数字は「速報」であり、審査の結果、「不問」になる可能性がある。

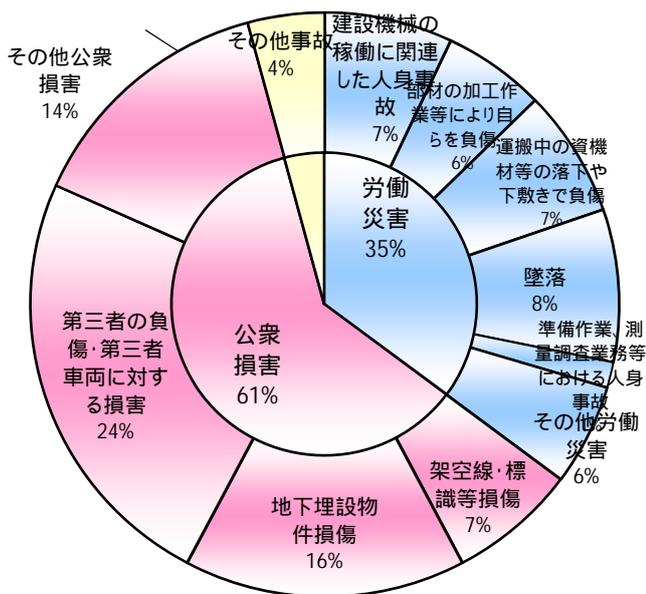
### 工事事故件数



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
平成21年度 累計	2件	16件	22件	26件	34件	46件	52件	66件	77件	81件	89件	96件
(月毎)	(2件)	(14件)	(6件)	(4件)	(8件)	(12件)	(6件)	(14件)	(11件)	(4件)	(8件)	(7件)
平成22年度 累計	7件	15件	21件	31件	33件	41件	49件	56件	61件	70件	77件	79件
(月毎)	(7件)	(8件)	(6件)	(10件)	(2件)	(8件)	(8件)	(7件)	(5件)	(9件)	(7件)	(2件)
平成23年度 累計	2件	9件	18件	20件	27件	31件	38件	46件	52件	57件	65件	74件
(月毎)	(2件)	(7件)	(9件)	(2件)	(7件)	(4件)	(7件)	(8件)	(6件)	(5件)	(8件)	(9件)
平成24年度 累計	3件	8件	11件	22件	29件	38件	51件	60件	74件	77件	78件	85件
(月毎)	(3件)	(5件)	(3件)	(11件)	(7件)	(9件)	(13件)	(9件)	(14件)	(3件)	(1件)	(7件)
平成25年度 累計	2件	5件	16件	20件	24件	31件	39件	48件	57件	63件	71件	
(月毎)	(2件)	(3件)	(11件)	(4件)	(4件)	(7件)	(8件)	(9件)	(9件)	(6件)	(8件)	

なお、平成21年度工事事故より、国の管理物損傷事故件数を措置の対象としている。

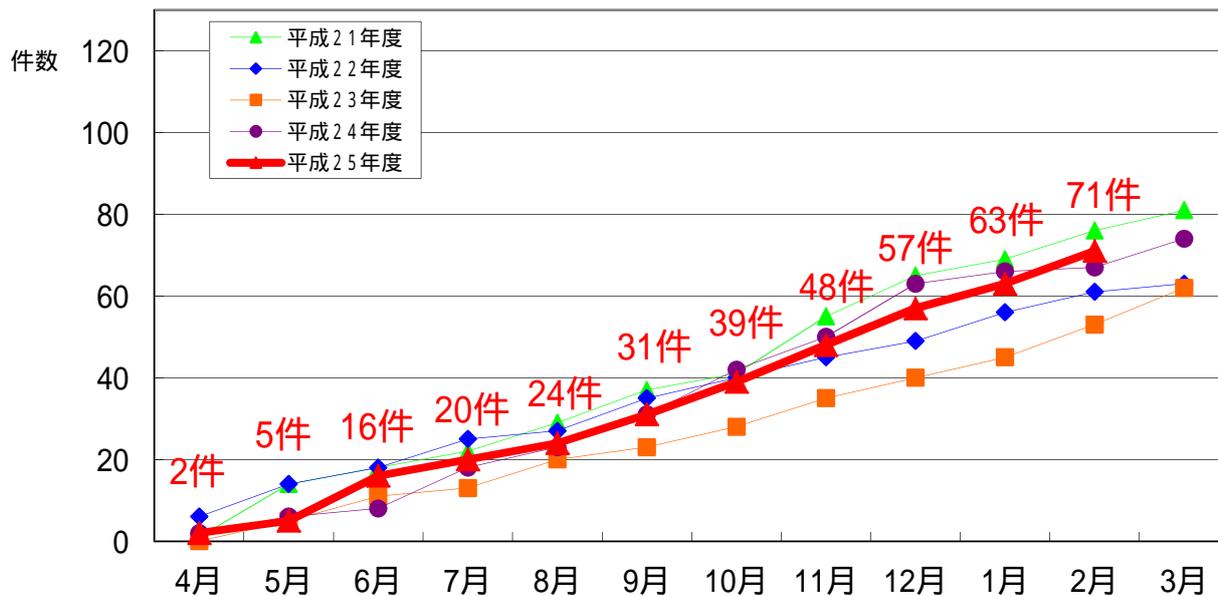
平成25年度 工事事故発生状況(発生形態別)



	発生形態	H23	H24	H25	過去3年間計
労働災害	建設機械の稼働に関連した人身事故	4	7	5	16
	部材の加工作業等により自らを負傷	1	0	4	5
	運搬中の資機材等の落下や下敷きで負傷	5	9	5	19
	墜落	3	5	6	14
	準備作業、測量調査業務等における人身事故	0	0	1	1
	その他労働災害	1	6	4	11
	小計	14	27	25	66
公衆損害	架空線・標識等損傷	9	10	5	24
	地下埋設物件損傷	8	7	11	26
	第三者の負傷・第三者車両に対する損害	22	19	17	58
	その他公衆損害	18	19	10	47
	小計	57	55	43	155
その他事故	3	3	3	9	
計	74	85	71	230	

H25年度重点的安全対策項目

(参考) 工事事故のうち、「その他公衆損害」における車両管理業務等の車両の自損事故を除く事故件数(車両管理業務等の車両の自損事故を除いた工事事故件数)

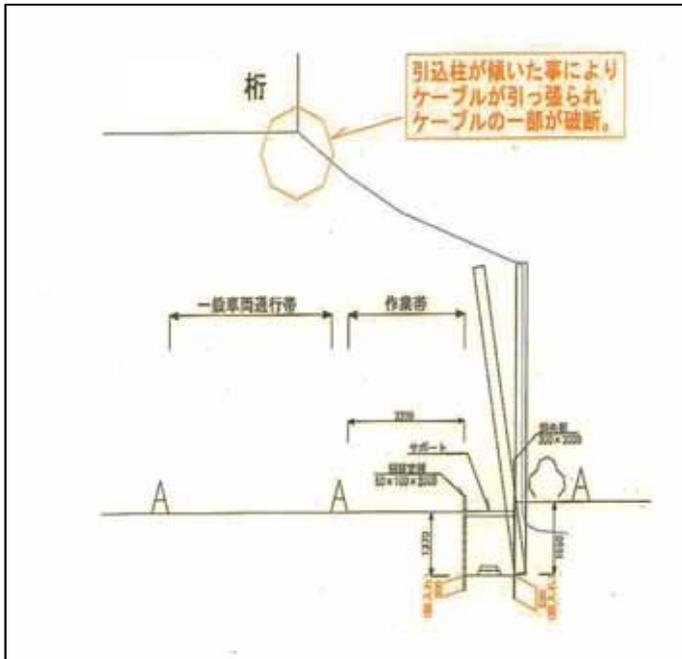


	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
平成21年度 累計	1件	14件	18件	22件	29件	37件	41件	55件	65件	69件	76件	81件
(月毎)	(1件)	(13件)	(4件)	(4件)	(7件)	(8件)	(4件)	(14件)	(10件)	(4件)	(7件)	(5件)
平成22年度 累計	6件	14件	18件	25件	27件	35件	40件	45件	49件	56件	61件	63件
(月毎)	(6件)	(8件)	(4件)	(7件)	(2件)	(8件)	(5件)	(5件)	(4件)	(7件)	(5件)	(2件)
平成23年度 累計	0件	5件	11件	13件	20件	23件	28件	35件	40件	45件	53件	62件
(月毎)	(0件)	(5件)	(6件)	(2件)	(7件)	(3件)	(5件)	(7件)	(5件)	(5件)	(8件)	(9件)
平成24年度 累計	2件	6件	8件	18件	23件	31件	42件	50件	63件	66件	67件	74件
(月毎)	(2件)	(4件)	(2件)	(10件)	(5件)	(8件)	(11件)	(8件)	(13件)	(3件)	(1件)	(7件)
平成25年度 累計	2件	5件	16件	20件	24件	31件	39件	48件	57件	63件	71件	
(月毎)	(2件)	(3件)	(11件)	(4件)	(4件)	(7件)	(8件)	(9件)	(9件)	(6件)	(8件)	

問合せ先: 企画部 技術調査課 遠藤・桑田 (TEL 048-600-1332)

発生日時	平成 26 年 2 月 1 日 (土) 13 時 20 分			天候	晴
工事情報	道路系事務所 一般土木工事				
被災の状況	性別	年齢	職種	被災の程度	
	-	-	-	光ケーブル切断	
事故概要	自由勾配側溝を設置するため、ケーブル引き込み柱に隣接した箇所を掘削していたところ、ケーブル引き込み柱を傾けてしまい、光ケーブルが切断されたもの。				
	公衆損害 - その他公衆損害				

## 事故発生状況



### 【事故発生原因】

・現場条件に合った仮設計画となっていなかった。  
など

### 【事故防止のポイント】

・現場をよく確認するとともに、必要に応じて試掘などを行い、適切な施工計画をたてる。  
など

・排水構造物工(街渠)の作業において、前日、掘削からベースコンクリート打設を行った範囲に引込柱があった。

・当日はベースコンクリート養生中ということもあり、引込柱から30m程度離れた箇所で掘削作業をおこなっていた。

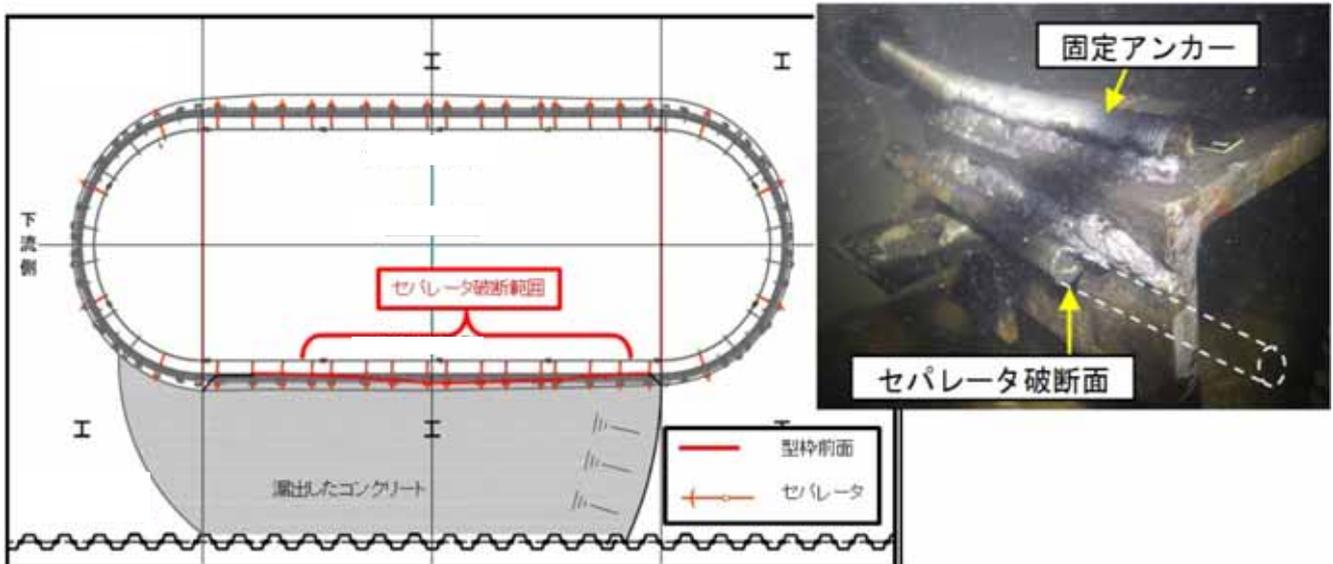
・引込柱は転倒防止の措置を行っていたが車道縦断側45°方向に傾いてしまった。

・その際、隣接高架橋の桁下に繋がっていたケーブルが引っ張られケーブルの一部が破断した。

・交通振動等が多く補強サポートが緩み傾いてしまった事が考えられる。(補強サポートは1段のみ)また、引込柱の根入れ深さの確認が不足していた。

発生日時	平成 26 年 2 月 6 日 ( 木 )	10 時 50 分	天候	晴
工事情報	道路系事務所 維持修繕工事			
被災の状況	性別	年齢	職種	被災の程度
	-	-	-	河川にコンクリートが流出
事故概要	橋脚の根巻きコンクリート打設に伴い、型枠支保工のセパレータが破断し、型枠が損壊したため、水中不分離性コンクリート(約16m <sup>3</sup> )が河川内へ漏出したもの。これによる河川水質等への影響はなし。			
	公衆損害 - その他公衆損害			

## 事故発生状況



- ・打設翌日のレイタンス処理準備作業中、潜水土が型枠損壊を確認した。
- ・型枠を上げた結果、直線部の型枠を保持しているセパレータの破断が確認された(直線部セパレータ96本のうち、35本が破断し、15本が溶接剥離)
- ・損壊した型枠から、コンクリートが河川内に漏出したが、PHを測定した結果、水質に異常はなかった。
- ・セパレータの内側だけを溶接した場合に、引張強度が大きく低下することを予見できず、ダイバーに溶接の位置を指示せずにセパレータ内側を溶接してしまった結果、溶接部の強度が大きく低下した。
- ・その結果、中央部下端のセパレータが最初に破断し、近傍のセパレータ(内側に溶接されていた)に応力が再配分され破断範囲が広がったものと推測される。

### 【事故発生原因】

・事前に行った試験と異なる仕様の溶接を現場で実施してしまった。 など

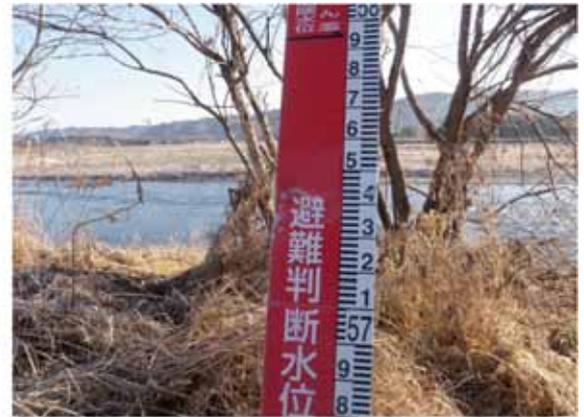
### 【事故防止のポイント】

・所定の溶接仕様で溶接を行うよう、周知徹底する。 など



発生日時	平成 26 年 2 月 7 日 (金) 14 時 0 分			天候	晴
工事情報	河川系事務所 一般土木工事				
被災の状況	性別	年齢	職種	被災の程度	
	-	-	-	量水板損傷	
事故概要	仮設工事用道路を撤去中のバックホウ(0.7m <sup>3</sup> )が、量水板に接触し、損傷させたもの。				
	公衆損害 - その他公衆損害				

## 事故発生状況



・仮設道路撤去整形をバックホウ(0.7m<sup>3</sup>)にて作業中、重機が旋回した際に量水板に気付かず、誤って重機後方部を接触させ損傷を与えた。

### 【事故発生原因】

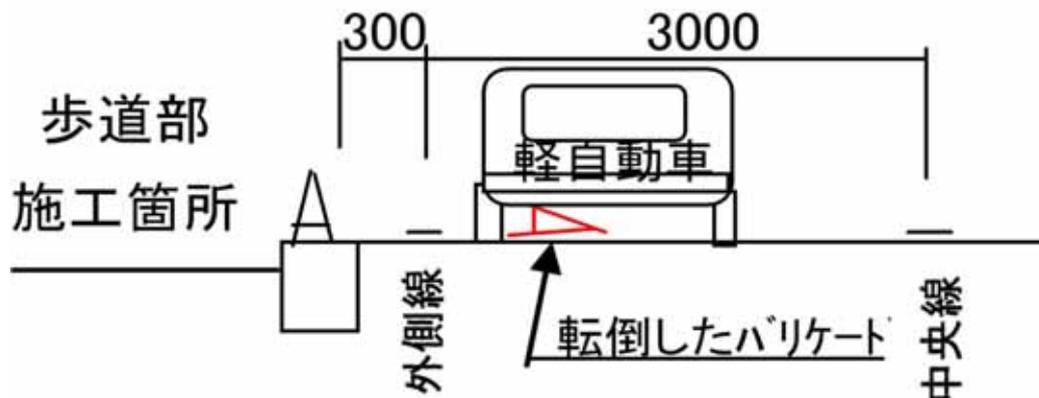
・近接構造物に対する注意喚起が不足していた。  
など

### 【事故防止のポイント】

・作業前に現場をよく確認し、注意喚起等を十分に行う。  
など

発生日時	平成 26 年 2 月 8 日 (土) 20 時 0 分			天候	雪
工事情報	道路系事務所 維持修繕工事				
被災の状況	性別	年齢	職種	被災の程度	
	-	-	-	一般車両損傷	
事故概要	工事現場を囲うため、歩車道境界に設置した単管バリケードが強風で車道側に倒れ、国道を走行してきた一般車両が単管バリケードに乗り上げ、車体を損傷したもの。 公衆損害 - 第三者の負傷・第三者車両に対する損害				

## 事故発生状況



強風によりA型バリケードが車道側に転倒し、  
A型バリケードの上に軽自動車が乗り上げてしまった。



・当日は雨天のため、歩車道境界にバリケード(4m単管)で工事現場を囲い、作業は行っていなかった。

・20:00頃、強風でA型バリケードが倒れているところに国道を走行してきた軽乗用車が単管バリケードに乗り上げ車体下回りを損傷させた。

・当日は、当該地区に暴風雪警報が発令されていた。

### 【事故発生原因】

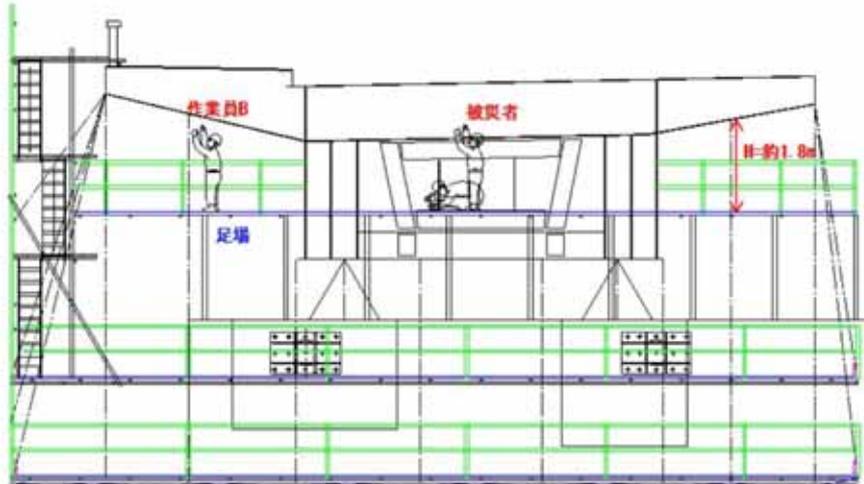
・暴風雪警報が出ているにもかかわらず、転倒防止措置を実施していなかった。  
など

### 【事故防止のポイント】

・強風等による転倒を防止する措置(重しの設置やバリケードの連結)を行う。  
など

発生日時	平成 26 年 2 月 19 日 (水)			15 時 50 分	天候	晴
工事情報	道路系事務所 維持修繕工事					
被災の状況	性別	年齢	職種	被災の程度		
	男	56	作業員	死亡		
事故概要	橋梁の伸縮装置非排水化工の工事において、既設非排水材の撤去作業を行っていた際、既設非排水材が落下し、作業員1名が下敷きとなり、死亡したものの。 労働災害 - 運搬中の資機材等の落下や下敷きで負傷					

## 事故発生状況



・橋脚の足場上において、作業員2人 (A・B) で伸縮装置非排水化のため、既設非排水材の撤去作業を行っていた。

・止水ゴム撤去後、施工箇所両端に作業員が別れ、中央部に向かい支持金具の撤去を始めた。

・中央部付近の最後の支持金具が撤去できず、作業員Bが張出部へ道具を取りに移動したところ、作業員Aが前屈の状態ですり落ち、既設弾性シーラ材の下敷きとなり死亡した。

### 【事故発生原因】(詳細調査中)

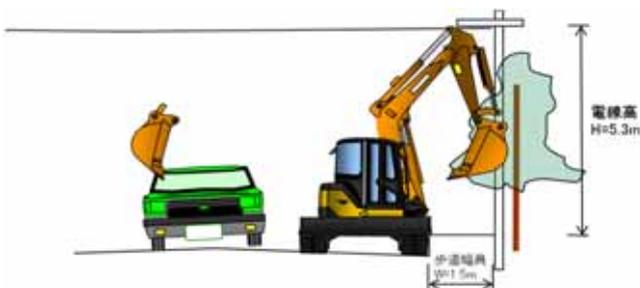
・既設非排水材(重量物)の撤去の作業手順が詳細に検討されなかった。 など

### 【事故防止のポイント】

・詳細な作業手順を作成し、周知徹底を行う。 など

発生日時	平成 26 年 2 月 28 日 (金)	1 時 0 分	天候	晴
工事情報	道路系事務所 維持修繕工事			
被災の状況	性別	年齢	職種	被災の程度
	男	29	第3者	顔と手に傷(全治3日)、目内出血(全治2週間)
事故概要	道路上で除雪作業中、バックホウにて雪を10t車に積み込む作業中、バックホウが車道側に旋回したところ、車道を走行していた一般車にバケットがあたり、損傷したものを。			
公衆損害 - 第三者の負傷・第三者車両に対する損害				

## 事故発生状況



- ・バックホウにて歩道上の雪の排雪作業をしていた。
- ・バックホウがバケットにて雪をダンプの荷台に入れて、スキ雪の位置に戻るとき、車道側に旋回したため、走行していた乗用車の天上部にバケットの先端部が接触した。
- ・乗用車が破損し、運転手が顔と手に傷を負い、目に軽い内出血があった。
- ・歩道側は架空線と境界線上の立木、電柱が支障となり歩道方向への旋回ができなかった。
- ・車道側へ旋回する場合は、車両を止めておかなければならなかった。

### 【事故発生原因】

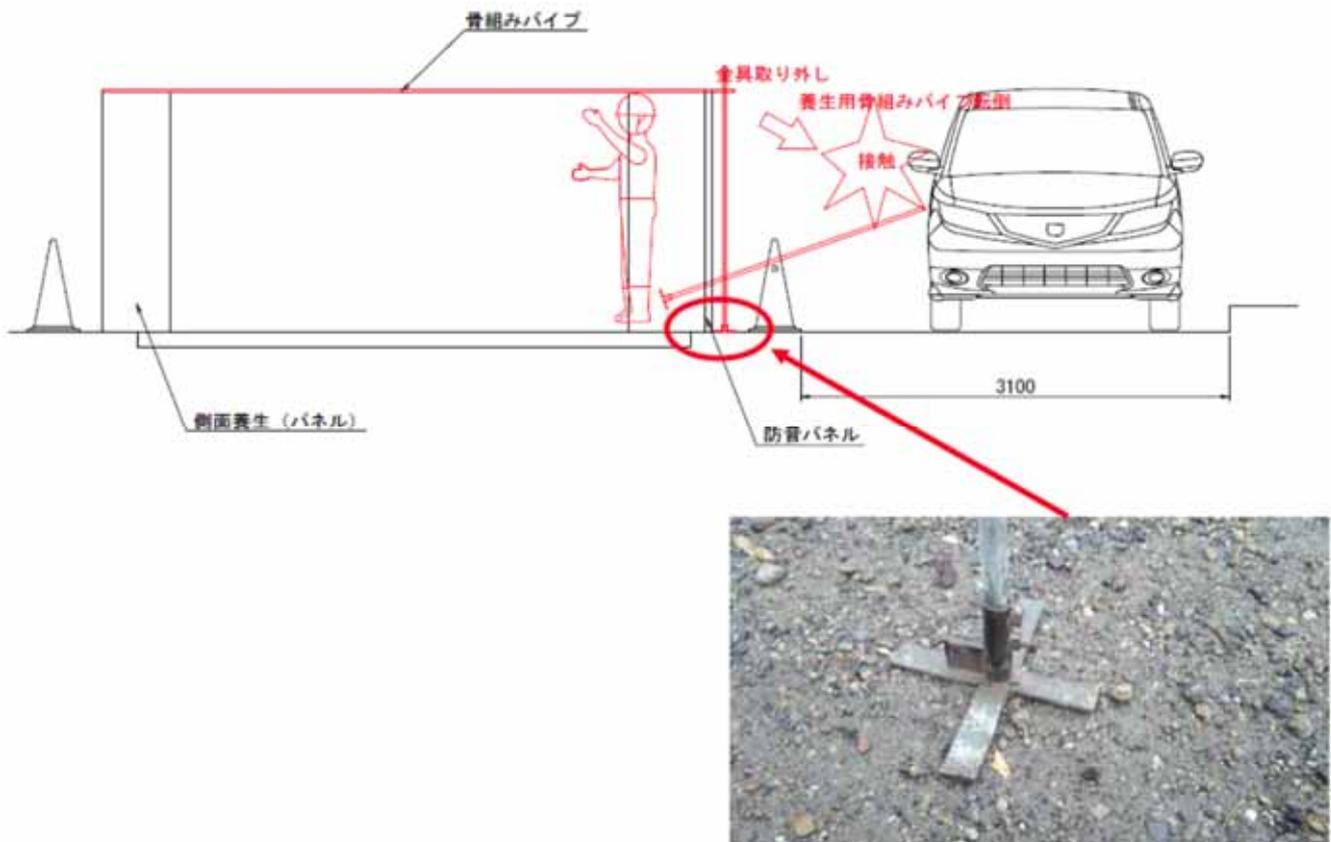
- ・交通誘導員、重機誘導員、オペレーターの連携不足 など

### 【事故防止のポイント】

- ・作業前に合図や手順などを定め、周知徹底を行う。 など

発生日時	平成 26 年 2 月 28 日 ( 金 ) 23 時 45 分			天候	曇
工事情報	道路系事務所 維持修繕工事				
被災の状況	性別	年齢	職種	被災の程度	
	-	-	-	一般車両損傷	
事故概要	橋梁の伸縮装置の交換作業を施工中、コンクリートはつり殻の飛散防止及び防音対策のために設置していたパネルの転倒防止用パイプを撤去している際、パイプの端部が規制帯から10cm程度はみ出し、走行中の一般車両に接触したもの。 公衆損害 - 第三者の負傷・第三者車両に対する損害				

## 事故発生状況



・伸縮装置の交換作業のためのコンクリートはつり作業完了後、防音パネル及び飛散防止パネルを撤去する際、建地パイプにベースがついているため、自立して倒れないものと思い、接続金具を取り外した。

・接続金具を取り外したところ、建地パイプが不安定となり、通行車両側へ倒れ、車両と接触した。

・車両の損傷は車体に擦れた傷ができた程度(10cm/箇所×4箇所)

### 【事故発生原因】

・車道側へのはみ出しに関する注意喚起不足 など

### 【事故防止のポイント】

・第三者への影響を考慮した作業手順を検討し、周知徹底する。 など